

評価項目4 (いじめ防止の取組に関すること)

重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめは絶対許さない」を学校経営第一の核とし、教員、児童、保護者も、いじめを見逃さないことを徹底する。</li> <li>教職員は全校児童一人一人の様子や言動を把握し、どんな些細な情報も管理職への連絡を徹底する。</li> <li>いじめに発展する言動やいじめを発見した際は、担任が状況を十分に把握し校長が第一の指導者となり、本人及び保護者への指導を徹底する。</li> </ul>		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学校は、生活アンケートやふれあい月間、いじめ対策委員会など、計画的・組織的に取り組んでいる。	定期的な調査や追跡調査などを実施しているようだが、その結果や成果が見えない。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の喧嘩やトラブルは日常的にあり、その中で児童は社会性を身に付けている。継続的に特定の児童をいじめる状況は、1件確認し指導解消した。生活アンケートや個人面談を通して、児童が悩みまで行かないまでも、日頃気にしていることを理解するように努め、いじめに発展していない。今後も日常的な情報交換を通して、早期発見と早期対応を継続する。</li> <li>生活アンケートの事案から、読み取れる事案に対して、どのように対応しているのかを、保護者会等を通して、伝えていく。</li> <li>いじめにつながるからかいや言葉遣いの乱れなどについては、教師が同じ指導をする。呼び捨てや下の名前を呼ぶ担任がいるが、学校のルールを守っていない。</li> </ul>
	アンケートから読み取れる事案に対して組織的に迅速に対応する。	校長先生はじめ、管理職が対応しているようだが、御殿山小にはいじめ自体がないのでしょうか。	B	
②	教師は、日頃よりいじめにつながる可能性のある事例や虐待の発見に努め、迅速・丁寧に児童にも保護者にも対応している。	迅速(早目)に助ける体制が出来ている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで通り、児童の様子を共有する機会を設け、学校全体で細かな対応をする。</li> <li>特定の児童を継続的にいじめる様子が少しでも疑われた時点で、迅速に組織的な対応を行っている。今後学校が大規模になると、個々の児童の把握と対応が不十分になり易いことが課題である。改善策としては、児童理解研修会の内容の精選などの見直しを行い、限られた時間内で効率的に情報を共有する。</li> <li>いじめにつながる可能性のある事例、不登校の児童については、今後も学年を超えて情報を共有し、迅速に確実に対応していく。</li> <li>担任のみならず、専科、学校中の教員が児童の様子をよく見て、気になることは即時に担任、生活指導、担任、など関係教員と連携し、発見や解決に努める。</li> <li>専門的な知見からの具体的なアドバイス、継続的なフォロー、教員との連携ができるスクールカウンセラーが必要。</li> <li>いじめと見られる状況(疑わしい程度)の場合でも、気になったことは専科、学年間などで話し、対応するようにしている。</li> </ul>
	スクールカウンセラーと連携し、児童の変化に対応できる組織集団にする。	いじめとは違いますが、不登校児童数名の配慮も保護者を交えて取り組んでいる。	A	
③				